

〈海沢のお祭り:宮参り〉 絵 大澤 新次

奥多摩町観光案内所窓口から

観光案内所には、老若男女そして海外からなど多くの方がいらっしゃいます。

先日、立ち寄られた方が「昔、高校生くらいの頃、登山の帰りにダムにあった、浮いている橋を渡ったんだけど、このあたりだったかな…。」

「三頭山に登られたのでしょうか？」

「そうそう、数馬っていう所に泊まって登った帰りに渡ったんだ。」

「でしたら、この奥多摩湖の麦山の浮橋ではないでしょうか。」

「やっぱりそうか！相模湖じゃないかって言っているのもいたけど…もう、ずいぶん昔のことだけだね。」

「この橋の上で、先生に写真を撮ってもらったんだ、なつかしいな。」

多分、周遊道路ができる前のことでしょうか、若き日の登山の話をも町のパンフレットを、ご覧になりながら楽しそうに話して下さいました。

案内所内では、観光案内だけでなく、このような心がほっこりするような話を伺う事も多々あります。

また、窓口では、奥多摩町の特産品ワサビを使った、わさびジェラート、わさびチーズタルト、わさびご飯の素や鹿肉カレー等のオリジナル商品の販売も行っております。観光の思い出と一緒に奥多摩の味も、お持ち帰りいただけたらと思います。

わさびジェラートは、残念ながら持ち帰りできませんが、その場で召し上がった方に「ごちそうさま。おいしかったです。」などと声をかけていただくとうれしくなって、これまたほっこりします。

観光に訪れた方々も、ほっこりしてお帰りいただけたら、うれしいですね。

(一般社団法人奥多摩観光協会スタッフ)

～とっておきの山歩きガイド～

川苔山 (1363, 3m)

川苔山といえば、細倉橋～百尋の滝ルートが一般的だが、沢沿いの道が崩落のため通行止めになっており、ウスバ尾根を辿り山頂を目指すことにした。

ウスバ尾根は、川苔山より西南に延びる川苔谷と、その支流である逆川とを分けている尾根である。

4月27日、奥多摩駅よりバスを利用、川乗橋から林道を歩くことにした。バス停で降りた数組の「山ガール」「山ボーイ」たちは、我々と前後しながら歩いていたが、ウスバ尾根登山口では我々だけだった。

竜王橋先のカーブ右側が登山口だ。さあ、登山開始。スギ、ヒノキ、の樹林帯に入るといきなり急登がまっていた。南側急斜面の下方向から逆川の流れとおぼしき川音がかすかに聞こえてくる。樹林帯を更に登りつめると、尾根らしき所に出た。倒木に腰をおろし休憩をする。水分補給を済ませ、再び歩き始める。尾根歩きが続くと思いきやすぐに急登だ。

喘ぎ、喘ぎ登ること30分、右手よりオオダワからの小径が横切って、百尋の滝方面へ向かっているやや広い緩斜面に出た。ウスバ乗越した。眺望はよくない。

道はかなり荒れているようだがオオダワ方面はしばらく通行止めになっているので、やむを得ないかもしれない。我々はウスバの頭を目指し直進する。これを登りきった先がウスバの頭だ。

11時55分、ウスバの頭に辿り着いた。ここから頂上までは僅かであるが、登山者で混雑しているだろうことを予想して、ウスバの頭で昼食を摂ることにした。昼食後、アカヤシオを探したが見つからず、やはり足毛岩あたりへ行かなければ無理だったのかもしれない。それでもミツバツツジが、そこ、ここ、に花を咲かせていたのがせめてもの慰めである。ウスバ尾根からは10分で頂上に立った。頂上は予想どおり登山客でいっぱいだ。南に「大岳山」、北東方面には「棒の折山」が望まれ、西方面に「雲取山」が誇らしげにその山容を見せてくれた。

下山は、舟井戸、大根の神、鳩ノ巣と定番コースを、ルイヨウボタン、ツルキンバイ、等の花々を愛でながら下山した山旅だった。尚、このコースは、登山地図にも載っておらず、一般の登山者向きではないことを付け加えておきます。(平塚 翼次)

山里歩き その1 ～皇女和宮碑～

こんなところに「和宮」。峰谷の普門寺には、将軍家の延命策の犠牲者で公武合体を象徴する悲劇のヒロイン・皇女和宮の一生を刻んだ碑があります。

高さ2.5m程の巨大な石碑は、天皇と侍女との間に生まれ、将軍徳川家茂に嫁した後、箱根の塔ノ沢で亡くなるまでを略記したものです。

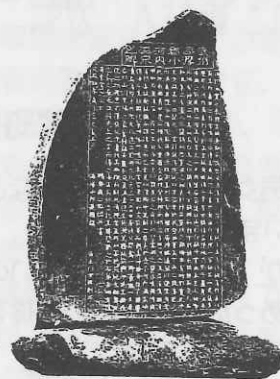
増上寺の将軍家墓地にあった石碑が山奥の普門寺まで人知れずやって来た経緯は省略しますが、悲劇の皇女に想いを馳せ、小説『和宮』を読むか、ビデオオンデマンドで視聴するかは、あなた次第。

普門寺まで足を運んだついでに長い石段脇の萬靈供養塔の裏面をご覧ください。詳細は『来させえ36号』のP4「奥多摩の世間話」に載っています。村人たちが若くして逝った二人の冥福を祈り、明治31年に建立した供養塔です。

山里歩き その2 ～小河内温泉之碑～

江戸時代から多くの文人墨客が足を運んだという「小河内温泉・鶴の湯」。その面影を残す温泉の碑が温泉神社(旧熊野権現)の境内にあります。

500文字程の難解な漢文で名前の由来や泉質の良さが記されています。裏面に姫路城主の弟、千石取りの御曹司・酒井抱一の俳句「千代にほふ鶴の出温泉や夏しらす」が流れるような文字で刻まれ、抱一も鶴の湯を楽しんだことでしょう。



小河内温泉之碑

もう一つの見どころは、社殿の彫刻です。海老虹梁と呼ばれる梁の彫刻は、まさにイッピンです。

なお、普門寺と温泉神社へのご案内ですが、奥多摩町が発行した「山里歩き絵図No.18」に地図と解説入りで詳しく載っています。

山里歩き絵図・全22集は、奥多摩駅前の観光案内所や町役場等でケースに入れて無料で配布していますのでご利用ください。(岡崎 学)

～「四季つれづれ」その11～

「柴犬と奥多摩へ避暑に」

少し暇ができたから、長年の念願であった柴犬を飼うことにした。妻と娘も同調してくれたので今年の6月11日、友人の紹介で秋田犬保存会東京支部長のK氏が持っている、生後2ヶ月の仔犬（雌）を譲り受けたのだ。犬を飼うなら日本犬と以前から決めており、家の広さなどから小型犬で縄文時代から日本に土着している柴犬が一番いいと思っていた。柴犬は飼い主に忠実で従順、賢く勇敢で警戒心も強いという。

家につれてきた仔犬はまだほんの赤ん坊で、ものおじせず、すぐに家族には慣れた。娘は名前を「柚子」にしたという。カタカナの名前は日本犬になじまない。日本名で奥ゆかしく、奥多摩にも柚子の木が多いことから私はすぐ賛成した。

柴犬に柚子と名づけて茄子の花 くにを

記録的猛暑は日本の夏の恒例となってきたが、今年の暑さは半端ではなかった。東京などでも連日の猛暑日。高温注意情報なども途切れることはなかった。柴犬は寒さには強いが暑さにはからっきしだめだ。今まで家ではクーラーなどほとんど使うことはなかったが、柚子が来てからはあまり暑い日はクーラーをつけることが多くなった。

お盆の頃、奥多摩の友人山野井くんから「こんさん、用事で10日ほど留守にするから奥多摩に避暑に来ないか」と声が掛かった。夫婦で北海道に行き、用事をすませた後、友人と北海道の山に登ってくるのだという。山野井くんの住まいは奥多摩湖を見渡せる高台にあり、妻の妙子さんは裏に畑を作って野菜などを植えている。留守にするとジャガイモやキュウリなどを狙ってサルやハクビシンなどが出るから追っ払ってくれると助かるという。また家の庭にはプランターに植えたナスやキュウリの鉢が沢山あり、夏場はすぐ乾いてしまうので水を切らすことができないのだという。

私の妻はお盆に義兄のお墓参りを兼ね、茨城の姉のところに行きたいというし、娘も友達と旅行をしたいと言っているのだから、私は柚子を連れて奥多摩の山野井家へ避暑に行くことにした。以前も夫婦で海外遠征をするときなどに、何度か留守番に入ったことがあるから勝手は分かっている。

8月7日、私は柚子を連れて食料などを買い込み山野井家に行き、家の鍵を引き継いだ。そして二人は車で北海道に出かけて行った。

山野井家は下の奥多摩湖から吹き上げる風があるし、標高も600mほどの場所だから、私の家の福生市よりはよほど涼しい。車もほとんど通らないし通行人もいないから、散歩デビューしたばかりの元気盛りの柚子には最適の場所だ。

次の日の夜は奥多摩の納涼花火大会だったので柚子は留守番。私は友人と町へ出て花火を見ながらビールを飲んだ。奥多摩の花火はいい。大きな花火大会のように引きも切らさずドンパチ上がり続けるのは息が詰まる。奥多摩の花火は愛宕山の上から約1000m発上げる。間際にシュルシュルと光の帯が伸び、ドーンと音と同時に大輪が開く、そしてまた暗闇。花火にはこの“間”が大事だ。周囲の山に反響する大きな音と闇に残る光の残像。負け惜しみではないが情緒のある奥多摩の花火だ。

朝夕の柚子の散歩は家を出て倉戸山の登山道を20分ほど登りまた戻る。国道まで下りて行き、また家まで登ってくるという約1時間のコースである。散歩の途中、ほとんど車や住人と出会うことはない。昼間は読書や畑の見回り、野菜の水やりなどでゆっくり過ごす。そしてある時は友人の家にお邪魔して、柚子の犬小屋造りをした。サルやハクビシンも柚子の匂いを感じたのか、畑に姿を見せることはなかった。

途中に一度家に帰ったが、あとは山野井家に泊まり込んで過ごした。友人と造っていた犬小屋も完成した。林業家の端材を手に入れ、素人とは思えないような立派なログハウス風の犬舎ができあがった。これは柚子も気に入ったようだ。



(完成した犬小屋と柚子)

8月17日夕方、山野井夫婦は北海道から戻った。家の鍵と畑を引き継いで、柚子との奥多摩での避暑は終わった。ゆっくりできた夏休みであった。柚子はまた一回り大きくなったような気がする。

(元 青梅警察署山岳救助隊副隊長 金 邦夫)

～行ってきたあよ～

白丸と棚沢の獅子舞

白丸

奥多摩の夏は祭礼月です。8月の第3日曜日に白丸の元栖神社と鳩ノ巣・棚沢の熊野神社を訪ねました。午前10時を過ぎた頃、白丸駅で宮参り途中の獅子舞行列に出会いました。

囃子方、獅子三頭、役員と総勢10人ばかりが、踏切を渡って数馬の切通しの方へ。行列を追って後から登って行き、ここから「追っかけ」が始まります。数馬の切通しまで行くと、大岩の上にある大天狗を祀る大高神社前で獅子が狂っています（舞うと言わず狂うと言う）。

足場の悪いところでの大変な仕事（演舞）です。宮参りは30分ほどで終わり、一行は次の杣入観音堂へ。ここでは、十一面観音に「七堂」を奉納し、観音堂を七回廻りますが、これを虫送りとも言います。今回は、普段あまり見る機会が少ない「七堂巡り」の時間帯に出会いました。

元栖神社では、昼食をとりながら見学し、一段落したところで、棚沢の熊野神社へ。ハイキングを兼ねて白丸ダム堰堤を渡り、鳩ノ巣溪谷遊歩道を経て新規オープンしたはとのす荘に立ち寄り、熊野神社へ向いました。

棚沢

棚沢の熊野神社に着いたのは午後2時頃でした。適当な場所を選んで腰をおろすとやがて、笛、ささら、太鼓の音と共に「女獅子かくし」の出番です。世話人が獅子の動きや、ささらを持つ花笠に指示して所定の位置に立たせると、囃子が拍子を取り、それに連れて獅子が狂います。

4人の花笠が立つ場所は獅子舞の演目によって異なることから、ここは森の中、ここでは洞の中等と解説してくれるので、棚沢の獅子舞は見ていて分かり易く楽しめます。

囃子の笛は決められた人数ではなく、十数人で吹くので、集落全体として祭りへの一体感があじわえます。また熊野神社の“のぼり旗”は熊野・将門神社を示す両社祭礼となっており、1848年頃から両氏子による祭礼が行われていたようです。(杉浦 重明)

御岳山レンゲショウマとロックガーデン

レンゲショウマ

御岳山のレンゲショウマの群生地へはケーブルカーの御岳山駅で観光案内図を入手して、富士見台の右奥の方に行けばすぐに到着できます。富士峰園地頂上の産安社の北側斜面に、約5万本のレンゲショウマが群生し、8月中旬頃が見頃です。

レンゲショウマは日本特産でキンポウゲ科の一属一種の植物です。ショウマと称する類は小さな花がたくさん集まって咲く総状花序が多いのに対し、本種は1本の茎に10個弱の球形の蕾を付け、頂部から順番に開花していくために開花期間が長く、御岳山のレンゲショウマ祭り期間を1か月以上に延長できる事から、重要な夏の観光資源となっています。

花の花弁に見える部分は萼（がく）で本当の花弁は内側の薄紫色の雄しべを囲んで直立している部分。花や蕾が重いために下向きに咲く事からうつむいているようにも見え、薄紫色の色合いとの相乗効果もあって上品な妖艶さを感じさせてくれます。ここではソバナ、カシワバハグマ等々の開花と併せ、トチバニンジンの赤い実に出会うのも楽しみの一つでしたが、今年はその赤い実には会えませんでした。

なお、似たような名前のキレンゲショウマはユキノシタ科キレンゲショウマ属で、紀伊半島・四国・九州に分布し、関東地方には自生していません。

ロックガーデン：以下岩石園

東京の奥入瀬とも呼ばれ、延長約1kmの苔むした岩石からなる美しい溪谷です。今回は、御嶽神社隨身門→長尾平→天狗の腰掛け杉→天狗岩→岩石園→綾広の滝→滝の上部を回って→天狗の腰掛け杉→長尾平→御嶽神社隨身門の約4kmを歩きました。

岩石園入口ではオレンジ色の花を咲かせたフシグロセンノウが迎えてくれ、タマガワホトトギス等の花が見頃でギンバイソウは実をつけており、中でも綾広の滝沿いに咲くタマガワホトトギスは、滝の流れとコラボって素敵な景観をかもしだしていました。

新緑もさることながら、秋の紅葉も見事な岩石園にお出かけ下さい。 2015.08.21 (本渡 康隆)

“山したたる”から“山よそおう”へ

この間まで、深い緑をたたえ、夏の強い日射しにきらめいていた森の木々も、この季節、そこはかたなく、くすんだ色あいを見せるようになります。

中には紅や黄の彩りを浮き立たせるものもありますが、木々が、これまでの“動”から“静”へとすがたを変えてきているのですね。夏の強い日射しを浴びて活発に生産活動をしてきた“動”のすがたから、生産した栄養分から得たエネルギーをもとに、“よそおい”始めた“静”のすがたへのうつろいがうかがえます。

“山よそおう”は、紅葉など身を着飾ることとも受けとめられますが、むしろ木々が働きすくめでよごれたおのれの身を清めることや、自分たちの子孫を残すための“したくをする”ことと受けとめたらどうでしょうか。

その“したく”とは、木々が落葉の前に葉にある有用物質を茎の方へ回収し、さらに体の不用な物質を葉に移動し、葉を落とすことでリフレッシュをはかることです。また、実をつけることで、生を引き



継ぐ準備をすることです。

実はじつに個性的な形をしていますので、樹木を見分ける手がかりにもなります。アカシデの果苞はつけ根の両側にきょ歯がありますが、イヌシデの果苞の片側にはきょ歯がありません。クマシデの果苞は名の通り、ずんぐりした形をしています。いずれの実（果実）も、種子を包んだままかたくなっていて、瘦果（そう果）といいます。アカシデの果苞のつけねの形から「赤ちゃんバンザイ」とよんだ友人がいます。アカシデを見分ける時の面白い表現ですね。 * 「苞」：花を包む鱗片葉のこと。花が実となったとき、それを「果苞」とよびます。

（橋上 一彦）

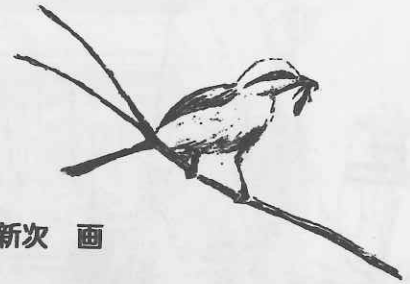
“モズ”

秋分の日が過ぎる頃になると、朝夕めっきり涼しくなる。奥多摩駅付近を賑やかに飛びまわっていたイワツバメもほとんど見かけなくなりいよいよある場所？に集結し、そして一斉に南へ渡って行く。

突然キーン、キーンと空気をつんざくように鳴く鳥の声が聞こえてくる。

全長 20cm でくちばしの先が鋭く鉤状に曲がり精悍な顔のモズだ。彼は小さくても猛禽類だ。

昆虫、カエル、小鳥などを主食としている。もちろん木の実も御馳走だ。



大澤 新次 画

里山、川原、溪谷沿いの樹木林など比較的開けた環境で生活をする。まわりが見渡せる梢などで、体を立ててとまり、長い尾をねじるようにしてしきりに動かしている。雄は顔に太い黒帯のあるたくましい感じだ。モズは縄張り意識が強く、オスもメスも高鳴きをする。モズは百舌とも書くが、彼らはいろいろな鳥の鳴きまねをする。

人間にも鳥の鳴きまねの上手な人もいるが…。

又、モズには不思議な習性がある。カエル、バッタ、虫など尖った枝などにさして「はやにえ」をつくる。

何のために？一説には、エサが不足した時のための保存食ではないかと考えられている。

しかし、はっきりした事はわかってないようだ。

（畑 幸夫）

コラム モズの求愛

もてるオスの条件とは、歌がうまいこと。言いかえれば、いろいろな鳥の鳴きまねが上手なことです。

モズは漢字で「百舌」と書くだけあって、ウグイス、メジロ、カワラヒワ等々、レパートリーが広いほどもてるとか。次に、その声を聞いて近づいてきたメスにプレゼント攻勢をかけます。なんだか我々人間とよく似ていると思いませんか。

（来さっせえ〜編集委員会）

ガイドだより 晩秋の奥多摩山歩き

～ワンポイントアドバイス～

秋は空気が澄んで山からの展望は格段に良くなる。本仁田山や大岳山に登れば、スカイツリーや東京湾・房総半島迄をも見渡せる日が多い。また、雲取山では毎年10月の初旬になると紅葉が始まり、むかし道では12月の初旬まで楽しむことが出来る。

一方、12月下旬には奥多摩の山でも例年初冠雪があり、特に標高1,000m付近から上では登山道にもアイスバーンが現れてくる。この時季は昼間の時間が極端に短くなり山では午後3時を過ぎると薄暗く、12月初旬の4時半には日没を迎える。

これらのことを踏まえ、以下、晩秋の山歩きについて特に心がけておきたい事項を挙げる。



晩秋の標準装備 於：「三頭山」(1,531m)

- ① 早出早着(体力的にもゆとりのある登山計画)
- ② 登山計画書の提出(電子申請又は最寄り駅で)
- ③ 経験者と複数以上で行動(単独行は避ける)
- ④ 防風防寒対策(フリース等重ね着の工夫)
- ⑤ 基本装備(地図・コンパス・雨具・照明具・行動食・登山靴・必要に応じてアイゼンなど)
- ⑥ 情報の事前確認(天候並びに山域情報)
- ⑦ セルフレスキューと通信手段
- ⑧ その他山域に応じた装備等

昨年の奥多摩における山岳遭難は50件74名を数え、特に晩秋11月に多く発生している。

単独登山は避け、その山を熟知した経験者と同行されたい。また、入山にあたっては最新の気象情報は勿論、案内所や登山相談所(奥多摩交番他)・ビジターセンター等で入山域の最新情報を入手し、自己の装備を含め万全を期されたい。楽しい登山にも危険が隠されている旨明記し筆をおく。

(富士 光男)

施設案内

～日原鍾乳洞～

奥多摩の北部に位置する日原地域に、東京都の天然記念物にも指定されている関東で随一の規模を誇る「日原鍾乳洞」があります。悠久の時を経て創られた巨大地下空間に広がる異世界は、かつては修験道の聖地になるなど、自然崇拜の信仰をあつめる特別な場所でもありました。現在は、観光鍾乳洞として洞内も整備され、年間を通して多くのお客様で賑わっています。

一登山・ハイカーの方々へ

◎登山道などの通行止め情報

- 日原から雲取山 大ダワ林道と唐松谷林道は土砂崩落箇所があり通行止め、川苔山踊平から獅子口小屋跡と大ダワから足毛岩、登山道は土砂崩落のため。
 - 白丸湖右岸の数馬峡橋～鳩ノ巣方面の遊歩道も引き続き通行止めです。
 - 御岳溪谷遊歩道 寒山寺の上流右岸遊歩道。
- 以上、奥多摩ビジターセンター等のHPで事前にご確認ください。

一般社団法人奥多摩観光協会事務局

平成27年度

登山・ハイキング会員募集

奥多摩観光協会では、当協会が主催するイベントの参加者を募集しています。

27年度会費1,000円で、5回参加すれば、奥多摩温泉「もえぎの湯」の無料券(入湯税50円は個人払い)をプレゼントします。但し各回参加費700円を申し受けます。

会員登録は、郵送、FAXでも手続きができます。詳しくはJR奥多摩駅前にある観光案内所にお問い合わせください。

電話 0428-83-2152

FAX 0428-83-2789

次号発行予定：平成28年1月15日

発行	一般社団法人 奥多摩観光協会
住所	〒198-0212 奥多摩町水川210
電話	0428-83-2152 FAX 0428-83-2789
編集	名人・達人観光ガイドの会